

**日の出町教育目標(抜粋)**

- 基本方針1「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成
- 基本方針2「豊かな個性」と「創造力」の伸長
- 基本方針3「生涯学習」と「文化・スポーツ」の振興
- 基本方針4「町民の教育参加」と「学校経営の改革」の推進

**【大久野中教育目標】**

未来をひらく豊かな社会人をめざして

- ◎自ら進んで学ぼう
- 思いやりの心 感動する心をもとう
- たくましく 心と体を鍛えよう

**東京都教育目標(抜粋)**

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

**【中期的目標】**

～教育基本法・学習指導要領～

全ての教育活動を通して、豊かな心や知性、感性の育成し、自己有用感を持ち、社会に貢献しようとする意欲を持った「知・徳・体」のバランスが取れた人材を育てる。  
さらに、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。

**【今年度の教育活動の目標12項目】**

- 【目標 1】道徳教育の充実(德育)
- 【目標 2】学力向上・授業力向上の取組(知育)
- 【目標 3】体力の向上(体育)
- 【目標 4】特別支援教育の充実
- 【目標 5】教職員のサービスの厳正と資質・能力の向上
- 【目標 6】生徒指導の充実
- 【目標 7】キャリア教育の推進
- 【目標 8】人権教育の推進
- 【目標 9】保護者・地域との連携の推進
- 【目標 10】組織的な学校運営の推進
- 【目標 11】礼節を身に付ける
- 【目標 12】安全教育・防災教育の推進

**【学校経営の視点】**

(1)～全ての判断基準～(基本 生徒ファースト)

- ①生徒に必要なかどうか
- ②教育的効果
- ③働き方改革
- ④保護者・地域の理解

(2)～全ての取組～ (基本 一工夫)

- 「小さな一工夫」を「大きな結果」につなげる

(3)～全生徒・全保護者・全教職員～

(日々 笑顔)

- 「挨拶」や「ありがとう」に笑顔を添える

【目指す学校】

**【目指す学校像】**

- ◎真に信頼される学校
- 道徳教育が充実している学校
- 感動あふれる学校

**【目指す生徒像】**

- ◎意欲的に、学び続ける生徒
- 心身ともに健康である生徒
- 「知・徳・体」バランスのとれた生徒

**【目指す教師像】**

- ◎使命感のある教師
- コミュニケーション能力のある教師
- 組織人として指導力のある教師

【中期的目標】

【知 育】	確かな学力の向上を図り、生涯にわたり学び続ける意欲を育成する。
【徳 育】	「特別の教科 道徳」の実践を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。
【体 育】	心身を鍛え、オリンピック・パラリンピック教育の精神を涵養する。健康教育の充実
【社会貢献】	保護者や地域との連携を図り、社会に貢献しようとする精神と態度を育成する
【組織的運営】	カリキュラム・マネジメントの実践

**【重点目標5項目】**①学力定着 ②不登校対策 ③ICT活用 ④議論し考える道徳 ⑤働き方改革

**【重点目標1】 ■学力定着に向けて■**

- ①家庭学習の習慣化を図るため、「年間学習見える化計画」を作成し個々の全教科の学習予定の見える化を図る。
- ②英語の「聞く」を推進するために、日々の清掃時に英語の音楽や、給食時の放送での英会話を流す。
- ③生徒にとって分かりやすい「めあて」の提示と「振り返り」内容の工夫と評価につなげる。
- ④主体的・対話的で深い学びの授業の取組と、生徒の問題解決型の授業展開を重視する。
- ⑤情報活用能力の育成を継続し、全教科でのタブレット端末の有効活用する指導法を追求する。

**【重点目標2】 ■特別支援教育の推進と不登校対策■**

- ①不登校生徒の「居場所づくり」を最も大切とし、複数の教員での「つながり」をもつことで寄り添い指導を徹底する。支援教育コーディネーターを中心とした支援委員会(週1回)で、情報交換のみでなく方向性や対策を打ち出す。
- ②新設スマイルルーム(登校支援員が見守る部屋)を有効に活用し、つながりを絶やさないようにして登校支援していく。
- ③「立ち止まりの場」(仮称)を校長室前に設け、生徒同士のコミュニケーションの場とする。
- ④不登校生徒の支援は、SCや町の教育相談室、地域のフリースクールや不登校支援教室との連携を密にする。

**【重点目標3】 ■GIGAスクール構想の実現■**

- ①GIGAスクール構想を踏まえ、教育効果を高めるICT機器を活用した授業展開と学習環境を構築する。
- ②緊急事態の想定や、家庭でのリモート授業の参加が全職員で行えるよう、授業形態を考え機器の扱いを整える。

**【重点目標4】 ■「特別の教科 道徳」の評価及び発問の研究■**

- ①社会の中でどういう行動ができるか選択肢の数を増やすため「多角的・多面的な見方、考え方」を引き出させ、生徒同士の考えにどのように折り合いを付けさせるか「議論し、考える道徳」の実践を行う。
- ②4人グループによる話し合い活動を本校のアクティブ・ラーニングとし、協働して、話し合い、道徳的判断力を身に付ける。

**【重点目標5】 ■働き方改革と部活動について■**

- ①ペーパーレス化の職員会議の提案は、変更点、重点等にアンダーラインを引くことで可視化し、内容の周知を図る。
- ②業務の効率化・スリム化、シンプル化、スピード化を目指しつつ、効果的な校務運営のため教職員の意識改革を図る。